

平成 30 年度 第 4 回可児市上下水道事業経営審議会議事録

【日 時】 平成 31 年 2 月 18 日（月曜日）午後 6 時 00 分から午後 7 時 00 分まで

【場 所】 可児市総合会館分室 大会議室

【出席者】 審議会委員 11 人（欠席 1 人）、事務局 10 人

1. 部長及び会長あいさつ

【部長あいさつ要旨】

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。本年度は水道料金の諮問・答申があり、既に 4 回目になるが今回が本年度最後の審議会となるのでどうかよろしくお願いします。

11 月に水道料金の諮問を行い、慎重な審議をしていただき、今後 5 年間は税抜き前の金額で料金据え置き及び広域連携についてはさらなる研究を進め、今後の課題としたいという答申をいただくことができた。その後事務局で調整し、雑賀会長及び安藤副会長に確認いただき成案とさせていただいた。今月中に市長に提出し、これを参考にして 3 月議会で報告する予定である。

本日の審議会では可児市水道ビジョンを改訂しましたので、これについて説明を行い、その内容について審議いただきたい。委員の皆様には活発に議論していただき、忌憚のない意見をお願いします。

【会長あいさつ要旨】

水道料金の改定について今まで数回に渡り議論し、市長への答申案をようやくまとめることができた。1 つは水道料金について今後 5 年間は現状維持すること、2 つ目は広域連携について十分に分析いただき、今後の経営に繋げていくことという 2 点である。水道料金について議論するにあたり、水道経営の全体像やその流れを把握しないと料金について意味のある審議ができないと強く感じ、難しい答申であったと思う。

今回は平成 31 年度から平成 40 年度までの水道ビジョンの改訂について説明いただき、将来 10 年間の水道経営の在り方等について審議したい。水道ビジョンの中身に関しては、過去 10 年間との違いは何なのか、またデータの妥当性はあるのかといった非常に難しい内容であるかと思う。全国平均や他団体との比較がないと判断しづらい部分があるかもしれない。指標も活用して説明いただくとありがたい。

【議事録署名者】

会長より今回の議事録署名者として小西委員と川崎委員の指名があった。

2. 議題

- ・可児市水道ビジョンの改定について

資料：可児市水道ビジョンの改定について（要旨）、水道ビジョン平成 31 年版

発言者 ☆=会長 ○=委員 ⇒事務局

【可児市水道ビジョンの改定について】

☆今の説明は、水道ビジョン 2 ページ下部青枠内の 6 つの項目について説明したということによろしいか。

⇒そうである。

先ほど会長が仰っていた同規模平均との比較については、13 ページの表右枠内に全国同規模平均を載せており、可児市と比べると、若干ではあるが可児市が全体的に良い傾向にある。全国同規模事業者についての説明は 14 ページに載せており、厚生労働省が公表している指標である。耐震化については平成 27 年のデータによると全国平均より少しだけ良い結果となっている。

○前回までの審議会で、水道料金は現状維持だがその資金繰りについては今後厳しくなるという説明があった。どの程度厳しいのかははっきりわからないので説明いただきたい。

⇒資金残高は他市町村も参考にすると、年間売上高の半分程度（可児市は 10 億）保有していれば安全という傾向がある。計画満了時には、場合によっては水道料金の改定も考える必要があるかもしれない。

☆平成 40 年の資金残高を見ると 8 億であり、前年から 4 億も減少しているがなぜ急にこれほど減るのか。また、全国平均と比較したデータ等を集めて、本当に年間売上高の半分程度でよいと言えるのか検証すべきである。

⇒平成 40 年度には投資事業が増加するため、その分資本的収支も大きくマイナスとなり資金残高が減少する。また、10 億というのは平均を意味している。香川県で香川県統一県内一水道というものを進めており、一体化して経営するまで各水道事業者は、売上の半分の資金残高を目安としている。

☆資金残高は各事業者で当然異なり、50%で統一されるものではないのではないか。一般企業では経営手法が各々異なり、安全性の指標は多岐にわたる。

○今の話をまとめると、おそらく売上の半分程度の資金残高があれば、緊急時の災害を含め経営が成立するという目安であるかと思う。

⇒そうである。半分程度必要という意味であり特に半分にこだわっているのではない。年度によって資金残高は多少増減している。

☆資料3で資本的収支不足額がマイナスとなっているが、これは経営が健全ではないということでよろしいか。どのように補填するのか。

⇒基本的には4条の資本的収支は収入がないのでマイナスになる。その補填は3条の収益的収支で補填している。よって資本的収支は毎年マイナスとなる。今後は資金残高を考慮するならば現行の料金体系ではやや不足する傾向と言えるかもしれない。

23ページを見ていただくと、今の資金の内容等は基本理念でいうところの「持続」に当たる。水道ビジョンは当然これだけではなく他の「安定」、「安心」、「環境」が相互に絡んで成立している。

☆基本理念についてそれぞれ金額で具体的な数値を出せないのか。

⇒「持続」にある財政面ではある程度の予測値は出せるが、他は概念的なところや金額で示せないこともあるので難しい。水道ビジョンは水道事業全体として考えるものであり、経営のお金のやりくりが全てではない。

○37ページの【直結直圧給水の推進】にある3階以上の建物への直結直圧給水はエリアが限られているのか。また、全て直圧にするとメーターを大きくする必要があるがどちらが得であるのか。

⇒今まで可児市は、3階以上についてどのエリアでも受水槽であった。しかし、実際には配水池と地盤との高低差により3階以上にも届くため全国の一部で直結型を導入している。可児市内の水圧は地区によって違いがあり、直結型は3階まで供給可能な水圧が必要であるという条件を満たす必要があるため、全てのエリアで導入できるわけではない。どうしても直結型にする必要があるわけではなく、場所により受水槽の設置も選択可能である。また受水槽は停電時にポンプが停止するため、高架水槽がない建物は蛇口から水が出ないというデメリットもある。以上を踏まえ、緊急時や環境面で考えるならば可能な限り直結型が望ましいということである。

○今回の新しい水道ビジョンは前回同様冊子にするのか。

⇒今後印刷製本する予定である。

○前回よりポップな表紙であるが配布予定はあるのか。

⇒積極的に配布することなく、PDF化してホームページに掲載する。

☆2ページを見ると、水道ビジョンの考え方は前回と全く同様であるがこれは基本的に変わらないのか。

⇒そうである。考え方は基本的には簡単に変わるものではない。事業計画等新しくなった内容については今後10年間についてそれらを反映している。

○28ページの写真について、平成29年度の工事中の写真で完成後のものではないがこれはどうしてか。

⇒今後の事業計画をそのページで示しており、それに伴い工事施工中の場面を載せたかったためである。

○36ページの水道GISの写真について、何をしている場面なのか。

⇒水道課の窓口でGIS（地理情報システム）を活用して説明している場面である。

☆13ページの指標について、14ページ下部の写真に替えてその詳細な分析を示してはどうか。

⇒本文内で簡単な説明はしており、より詳細な評価をそこに示すかは次回以降検討する。

3. その他

・下水道課長よりストックマネジメント計画について、完成次第報告するという連絡あり。

(会議終了)